国際交流委員会　　　　　　　　　　　**報告**　　　　　　　　　　　委員長　久保義弘

委　員

岡村康司、○久保義弘、酒井秀紀、樽野陽幸、西田基宏、西谷友重、西村幸男、渡部文子

**報告書作成日**

2020年 9月 24日

**報告事項**

**[1] 今期の委員**

新しい委員4名を含む、2020-　2022年度の委員が上記のように決定した。

**[2] 合同大会における国際交流シンポジウム**

第98回 日本生理学会大会（第126回 日本解剖学会総会･全国学術集会との合同大会）における国際交流シンポジウムについて、生理学会・国際交流委員会と解剖学会・海外交流委員会（委員長：和栗聡教授（福島県立医大））の協力により、以下の2企画を立案し、大会事務局に提出した。いずれも生理学会・解剖学会合同の国際交流企画である。

------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**生理学会・解剖学会合同　日韓　国際シンポジウム**

タイトル：

オルガネラ品質管理とその病態生理学的意義

（Organelle quality control and its pathophysiological significance）

内容：

細胞内小器官（オルガネラ）の品質管理は、細胞・組織の機能恒常性維持において極めて重要である。オルガネラの形態構造異常は自身の品質を低下させ、ひいては個体機能の低下や疾患発症の原因につながる。本シンポジウムでは、オルガネラの中でも特に生命エネルギー産生・代謝機能に直結するミトコンドリアの品質管理に着目し、その制御異常がもたらす形態構造変化や機能的変容、および病態・疾患形成との関連について最新の解剖生理学的知見を紹介する。解剖学・生理学の融合により、オルガネラ品質管理を標的とする革新的な医療戦略の創出を目指す。

オーガナイザー、座長：

　　生理学会側：　　西田基宏（九州大・教授）

　　解剖学会側：　　大野伸彦（自治医大・教授）

講演者：

　　生理学会側（機能）： 西村明幸（生理研・特任准教授）

　　 　Jin Han (Inje大医学部生理学（韓国）・教授）

　　解剖学会側（形態）： 大野伸彦（自治医大組織学・教授）

　　 　Woong Sun (Korea大医学部解剖学（韓国）・教授)

-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**解剖学会・生理学会合同　日米韓　国際シンポジウム**

タイトル：

新たな大脳基底核像を求めて

(In search of new concepts of the basal ganglia by new techniques)

内容：

光遺伝学や新規トレーサー技術によって、大脳基底核の解剖や機能について新事実が発見されてきた。これらは単に新知見に留まらず、大脳基底核の解剖、機能、病態についての従来の考えに変革を迫るものである。今回、国内外の第一線で活躍している若手研究者を招聘し、新規技術がもたらした新たな大脳基底核像について議論するとともに、今後の研究方向について展望したい。

オーガナイザー、座長：

解剖学会側：　藤山文乃（北大院医・教授）

生理学会側：　南部篤（生理研・教授）

講演者：

　 　解剖学会側（形態）：　苅部冬紀 （北大院医・助教）

　　　　　　　　　　　　　　　 　Juan Mena-Segovia (Rutgers University（米国）・Assistant Professor)

生理学会側（機能）：　野々村聡（京大霊長類研・研究員）

　　 　Jeongjin Kim （KIST（韓国）・Senior research scientist）

**2021年度事業計画**

2021年3月の大会が、名古屋にてオンサイト開催される場合は、上記の国際交流シンポジウムの実施のため、韓国から2名の講演者を招待する旅費（各上限 15万円 x 2件）が必要となる。

**理事会への提案（議事として諮りたいことをお書き下さい）**

無し